

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	医療ビッグデータ専門医養成コース(正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	3(早期修了)～4年						
養成すべき人材像	昨今、DPCや電子カルテデータ等医療ビッグデータを 意思決定や研究に利用活用できる人材が求められている。本コースでは、生物統計家として実務に携わる上で知っておくべき統計学及び疫学の基礎理論を学んだ上で、がん領域の臨床研究及びビッグデータを用いた統計解析を行うことのできる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、発表表現演習(2単位)、研究指導(8単位)、研究公正B(1単位)、医学研究概論(1単位)、医学研究基本演習(1単位)、医学研究セミナー(1単位)</p> <p><選択科目> CS演習(1単位)、SP演習(1単位)、腫瘍遺伝学外科実習(4単位)、がん医療学実習(6単位)、他専門科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、血液専門医や人間ドック健診専門医等と連携し、がん領域におけるビッグデータを有効に活用し、新規治療効果やがん予防の新知見の発見などを行っていく。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	当教室では、約4,000万人の患者データを保有するメディカルデータビジョン社から各種がん領域のデータベースを購入し、多くの大学院生が研究に活用している。また、本学では世界アカデミアが利用する電子データ集積システムREDCapシステムを中心に、AROのデータセンター機能を有し、医薬品開発における臨床試験統計解析の手法の立案、データ収集、統計解析等を過去5年間で約1,500件支援している実績がある。本コースでは臨床研究で多用される統計学や疫学、臨床試験学の基礎的コンセプトを理解し、統計的考察により、臨床試験の様々な局面における統計手法のあり方について自らの意見を持ち自らプロトコルなどを作成できると同時に、医療ビッグデータを用いたデータ解析を遂行できる高度なプログラミング手法を学ぶ。						
指導体制	医療統計学教室の教員(教授、准教授、講師、助教 各1名)が直接指導を行う。						
修了者の進路キャリアパス	医療ビッグデータ専門医を取得し、大学病院、がんセンター、地域中核拠点病院で活躍する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	都道府県内の5つのがん拠点病院に医療ビッグデータ専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で5人養成する。						